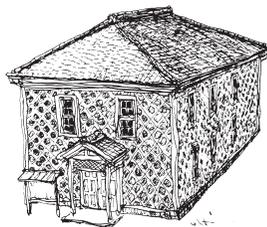


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

● 文学部長

まつうらよしみつ
松浦良充

学ぶ自由

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。慶應義塾の教職員・在学生一同、みなさんを心より歓迎いたします。

みなさんと私たちは、これから慶應義塾という知的コミュニティの構成員として、ともに学ぶこととなります。私学である慶應義塾は、福澤先生の思想を受け継ぎ、学問の独立と自由な探究を大切にしてきました。その伝統を受け継ぎつつ、未来に向かって、ともに慶應義塾の新しい頁を綴ってゆきましょう。

慶應義塾は1858（安政5）年を起源の年としていますが、大学レベルの専門課程は、1890（明治23）年に発足した大文学部の文学、理財、法律の3科の開設にはじまります。ここに日本最初の私立総合大学としての礎が築かれ、後にそれが現在の文学部、経済学部および商学部、法学部に発展しました。大文学部発足にあたっては、アメリカから各科の中心となる3人の主任教師が招聘され、その立ち上げに力を尽くしました。

福澤先生の依頼に応じてこの3人を推薦したのは、アメリカ最古の大学ハーバードのエリオット総長でした。彼は自由選択

科目制度を導入した総長として知られます。アメリカの大学史はこの時期、古典的知識の習得をめざす必修科目中心の「カレッジ」の時代から、自由な知的探究としての学問研究を重視する「ユニバーシティ（総合大学）」の時代への転換期にありました。ハーバードもこの時、総合大学への変革の最中にありました。エリオットは、大学の学生や教師が学ぶ自由を重視しました。特に学生の自由と個性を尊重し、自律的な科目選択を促すことよって、責任をもって主体的に学ぶことを期待したのです。

草創期の慶應義塾・大学部に、エリオットのこうした思想が伝わっていたかどうかは不明です。ただし3人の主任教師によって、新しい時代の総合大学をめざす種が蒔かれたことは確かです。そしてそれが、現在の慶應義塾大学として結実しています。そこでこれから学ぼうとするみなさんはいま、まさに学ぶ自由を手にかけています。高等学校までとは異なる知的探究の自由を手にかけています。どの科目を選択し、どのように学ぶのか。責任ある選択をして、学ぶ自由を謳歌してほしいと願います。